

# 校園長室から



## 学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和8年1月15日 第88号

### 一冊の本

先日の放送集会でお話したことをもう少し詳しく話したいと思います。

3学期の始業式で「出会いは奇跡だ」というお話をしましたが、出会いは、人だけではなく様々事柄にも現れると思います。

めぐりあわせは不思議なもので、私の場合は、中学1年生の冬、陸上部に所属していて、はじめの冬季トレーニング。駅伝などのある長距離選手は、忙しいのですが、短距離を専門にしていたので、来る日も来る日も筋トレばかり。そんななか、友人から勧められたのが、吉川英治作『三国志』。(横山光輝の漫画にもなって、図書室にも置かれています。)

面白くてイッキ読みでした。その後中国の歴史に興味を持ち始めます。

ちょうどその頃、南海百舌鳥ハ幡駅から少し北側に進んだところに小さな書店が出来てきました。そこのおじさんに聞けば、脱サラ(サラリーマンをやめて違う仕事に就くこと)して、新たに書店を立ち上げたとか。

新しい本棚からは、木の香り。全品新品の本からは、独特のインクの香り。

そこで、集会で紹介した『人物中国の歴史4』を見つけます。おじさんに聞けば、2か月に一冊新しい「巻」が出て、全部で11冊になるとか。こづかいを貯めて一冊ずつ買っていって読み浸る日々。

ここから『史記』の司馬遷を知ったり、項羽と劉邦のライバル物語や清朝の皇帝の賢明さを知ったりと。その後続々と歴史にのめり込んでいきました。本との出会い。これもまた奇跡だと思います。

ただ、最近悲しいのは、駅前の本屋さんがほとんど閉まっていることと、全巻揃えた『人物中国の歴史』が古本市で、ぐるぐる巻きに束ねられて、まとめて500円で売られたりしていること。時間は、容赦ありません。